

様式4

令和4年度 第2回大津市公設地方卸売市場運営協議会の会議結果

- 1 開催日時 令和4年12月20日（火）午前10時30分から午前12時まで
- 2 開催場所 大津市公設地方卸売市場 大会議室
- 3 出席者 16人 委員 10人（欠席3人）
事務局 6人
- 4 議事
 - (1) 会長及び副会長の選出
 - (2) 大津市卸売市場事業経営戦略（案）について
- 5 報告事項
 - (1) 大津市公設地方卸売市場冷蔵施設の改修について
- 6 閉会

【質疑応答等】

<議事>

(1) 会長及び副会長の選出

委員改選後、初めての運営協議会となったため、市場条例施行規則の規定に基づき、会長・副会長を選出した。委員の互選により会長に山口委員が、会長の指名により副会長に高木委員が選任された。

(2) 大津市卸売市場事業経営戦略（案）について

経営戦略（案）の全体の概要について事務局より説明を行った後、3つのテーマ（「現状と課題の分析、経営の基本方針に対する意見」、「今後、運営に関して特に留意すべき点」、「今後、果たすべき役割や期待する役割」）について意見交換を行った。

・テーマ1「現状と課題の分析、経営の基本方針に対する意見」について

委員：当市場は一般の市民に開放されているか。

委員：市民に開かれた市場として、「市場の朝市」を実施し、一般開放を行っているが、この3年間は残念ながらコロナ禍の影響により中止している。市場内で感染が拡大すると業務に影響することが懸念されるため、市場本来の目的である食の安定供給を確保する上でイベント等の開催には、十分な検討を必要とする。現在、イベント等の開催等については、日常を取り戻そうという動きがあることから3年ぶりに12月24日に朝市を開催することとなったが、今後も市場の役目を果たすべく、状況を見極めながら開催していく。

また、一般開放については、アフターコロナやSDGsを視野に入れ、市民の市場へのさらなる関心を深めていただくことも考慮し、他市場の事例も参考にしながら取り組んでいきたい。

委員：当市場はコロナ禍においても、この3年間1日も停止することなく生鮮食料品の安定供給を行っており、生鮮食料品の流通を支えるという意味においては消費者へ大きく貢献している。一方で、コロナ禍前に実施されていた朝市においては、当市場ならではの販売もあり、約3,000から4,000人の来場者で賑わっており、当市場と消費者を結ぶ魅力あるコンテンツとなっている。

委員：経営の基本方針の強みにおける産学官連携について、龍谷大学農学部と市場入場業者との具体的な関わりにはどのようなものがあるか。

委員：食の流通や農場実習などの授業への入場業者の方や管理事務所職員の参加、また、キャンパス内での食品販売などを通して、大学との交流が深まっている。今後は、食に関する学部だけにとどまらず、物流に関わる先端理工学部などとも交流し、さらに大津市内という枠組みにこだわらず、近隣他市の大学や企業とも連携を図っていければよいのではないかと考える。

委員：近隣大学との連携で言えば、近大まぐろの養殖がある。漁獲量の減少や円安による飼料の価格高騰、コロナなどの影響を受けて水産物の取引環境は厳しい状況下にあるが、今後も安定した出荷や供給ができるような体制づくりに向けて、大学と連携して研究を進めることができると考える。

委員：流通に興味がある学生はいるか。

委員：大学入学時にどんな分野を学びたいか、龍谷大学農学部 학생にアンケートしたところ、マーケティングや流通は1番人気であった。食に関する流通ビジネスに興味がある学生は多い。

委員：人材は経営基盤であると考えている。この業界に限ったことではないが、若手の人材が集まりにくい。流通に興味を持った学生達が市場に関心を持ち、集まってもらえれば、そこから経営戦略を築いていける。

委員：経営戦略を考えていく上で、事業の活性化が大事である。今後10年や20年先の将来構想を描いていく中で、若い方のアイデアを積極的に聴取し、市場全体の意見も取り入れて基本方針をたてる体制を構築していくべきである。

委員：若い方が集まりたくなるような市場に向けて引き続き検討していく必要がある。

・テーマ2「今後、運営に関して特に留意すべき点」について

委員：2024年問題（※1）について検討していかないといけない。ドライバー1人当たりの走行距離が短くなり、長距離で物が運べなくなることが懸念されており、今後の物流業界に大きな影響を与えると言われている。従来であれば、朝に九州から出荷された商品が当日の晩に当市場に到着していたものが、今後は2日間かけて到着することになる。産地からの食品を安心、安全に消費者へ供給し続けるために、これまで以上に商品温度の徹底管理が求められる。産地から予冷された食品の鮮度を保持し続けたまま商品を出荷する。市場内に点在する冷蔵施設で保管するのではなく市場全体で温度管理できるようなシステムにしていくことが望ましい。

また、当市場は、交通アクセスが良い立地条件であるが、取り扱う物量がなければ意味がない。市場流通の活性化に向けて、産地の商品をいかにして集荷し、販売していくかが課題である。

（※1）2024年問題とは、働き方改革関連法により2024年4月1日以降、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限が960時間に制限されることに伴い、物流業界で生じる様々な問題のこと。

・テーマ3「今後、果たすべき役割や期待する役割」について

委員：県内においては、近年、米の消費量は減少し価格も上昇しない中、生産者は収入を増やすために、米以外に何を栽培するかを大きな課題としている。野菜の栽培に目を向けている生産者は多く、野菜を栽培する生産者が増加している。生産者が栽培した野菜は、主として市場に出荷しており、今後も安定生産の寄与に向けて市場の流通に期待されている。

委員：近隣市場との販売競争が激化する中で、生産者と消費者を繋ぐ役割を果たしつつ、当市場の存在感を十分に発揮し、集荷量や販売量を増やす方法を議論していくべきである。

事務局：今回いただいた意見を反映させた経営戦略案を議会へ報告し、3月中に策定する予定である。策定した経営戦略については、次回の運営協議会時に報告させていただく。

<報告事項>

- (1) 大津市公設地方卸売市場冷蔵施設の改修について
質問等特になし